

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査実施日

令和4年4月19日（火）

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査(小学校:国語・算数・理科、中学校:国語・数学・理科)

- ・令和元年度より、従来のA問題（知識）とB問題（活用）という区分を見直した知識・活用を一体的に問う調査問題となった

(2) 質問紙調査(生活習慣や学習環境等)

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

5 調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数

(1) 学校数(義務教育学校、特別支援学校を含む)

- ・小学校：203校
- ・中学校：85校

(2) 児童生徒数(義務教育学校、特別支援学校を含む)

- ・小学校：8,593人
- ・中学校：8,979人

Ⅱ 調査の結果

1 教科に関する調査の結果

※文部科学省は、平成29年度から県の平均正答率を整数値で公表。

学 年	項 目	県・国	国 語	算 数 ・ 数 学	理 科
小学校 第6学年	問題数		14	16	17
	平均 正答率 (%)	本県	70	69	70
		全国	65.6	63.2	63.3
	順位	本県	2	1	2
中学校 第3学年	問題数		14	14	21
	平均 正答率 (%)	本県	73	58	55
		全国	69.0	51.4	49.3
	順位	本県	1	1	1

〈本県のこれまでの学力向上に関する取組〉

	H14	H19	H21	H22	H23		R4
国		全国 学力調査	→				
県	県基礎学力調査	→					
			金沢大学と連携	→			
			ステップ1	ステップ2	→		
				ステップ3	ステップ4	→	

【県基礎学力調査】(H14～)

国に先駆けて実施 〈小4・小6・中3〉

- ・全国学力調査の前日に実施
- ・小4: 国・算(国調査なし)
- ・小6: 社は毎年、理は3年に2回(国調査がない年)
- ・中3: 社は毎年、理・英は3年に2回(国調査がない年)

※分析結果や指導事例を取りまとめた報告書を作成し、各学校にフィードバック

【金沢大学と連携】(H21～)

ステップ1

- ・H21に、金沢大学と連携し、H19～21(3年間)の全国学力調査の結果を分析(金沢大学の教員＋県教委)

ステップ2

- ・H22に、H19～21(3年間)の全国学力調査の分析結果を踏まえ、「いしかわ学びの指針12か条」を策定
 - 学力向上の方向性を「授業づくり・基盤づくり・体制づくり」の3本柱で構成
 - H28に、新たな課題や新学習指導要領に対応した、「学びの12か条＋(プラス)」に改訂し、更に進化した指針を示した

ステップ3

- ・H22に、効果的な指導の普及を図るため、「学力向上フォーラム」を開催
 - 参加者は、各小・中学校、特別支援学校の研究リーダー(悉皆研修)
 - 金沢大学の教員が、全体講演や分科会において指導助言

ステップ4

- ・H23に、学力向上プログラム推進チームを結成(金沢大学の教員、県教委、学校の教員)
- ・金沢大学と連携し、全国学力調査の結果を踏まえて課題克服に有効な資料(指導事例・活用問題等)を作成し、県内教員向けWebサイトに掲載

学力向上に向けたPDCAサイクルの確立

活用力を高める授業づくり

- 1 物事を多様な観点から考察する力の育成
- 2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成
- 3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

学力・学習を支える基盤づくり

- 4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成
- 5 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成
- 6 よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視
- 7 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進
- 8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着
- 9 家庭や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進

指導改善を進める体制づくり

- 10 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進
- 11 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立
- 12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

〈本県と全国の比較〉 ※問題形式別の平均正答率の比較

【本県の特徴】

問題形式別に本県と全国の平均正答率を比較すると、**本県は、「記述式」の平均正答率において、「選択式」、「短答式」よりも全国との差が大きい。**

		小学校 国語		小学校 算数		小学校 理科	
		正答率	全国との差	正答率	全国との差	正答率	全国との差
石川県	選択式	74.6	+2.8	56.5	+4.7	72.2	+5.4
	短答式	71.1	+7.4	81.1	+4.6	73.6	+7.4
	記述式	56.1	+4.9	68.1	+8.0	56.2	+8.9
全国	選択式	71.8	—	51.8	—	66.8	—
	短答式	63.7	—	76.5	—	66.2	—
	記述式	51.2	—	60.1	—	47.3	—

※国語：14問のうち、選択式8問、短答式3問、記述式3問

※算数：16問のうち、選択式6問、短答式6問、記述式4問

※理科：17問のうち、選択式11問、短答式3問、記述式4問

		中学校 国語		中学校 数学		中学校 理科	
		正答率	全国との差	正答率	全国との差	正答率	全国との差
石川県	選択式	76.5	+2.8	56.8	+4.2	54.3	+4.7
	短答式	75.2	+4.8	72.5	+6.8	25.9	+1.1
	記述式	64.2	+6.8	43.6	+7.4	61.3	+7.8
全国	選択式	73.7	—	52.6	—	49.6	—
	短答式	70.4	—	65.7	—	24.8	—
	記述式	57.4	—	36.2	—	53.5	—

※国語：14問のうち、選択式6問、短答式5問、記述式3問

※数学：14問のうち、選択式4問、短答式5問、記述式5問

※理科：21問のうち、選択式15問、短答式1問、記述式5問

【要因】

- ・県独自の基礎学力調査において、国が調査対象としていない**小学校4年に対して、国語・算数を実施し、毎年、理由などを文章で述べる「記述式」の問題を出題し、学力の定着状況を把握している。**
- ・記述式で課題の見られた問題についても指導事例を作成し、それを参考に授業改善を進めている。
- ・「いしかわ学びの指針12か条」に、「**根拠や筋道を明確に表現する力の育成**」を位置付け、**県内の小・中学校が同じベクトル**で授業改善を進めてきた。

2 質問紙調査結果（生活習慣や学習環境等）

＜ 児童生徒に対する質問紙調査からの抜粋 ＞ 肯定的な回答の割合を抜粋

【学習に対する興味・関心に関すること】

(1)算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。
→ 小6で71.7%、中3で53.3%で全国より高い。(全国:小6 69.3%、中3 47.3%)

(2)理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
→ 小6で80.8%、中3で69.1%で全国より高い。(全国:小6 77.2%、中3 61.5%)



授業において、主体的に学習を進めようとする態度が良好

【学習習慣等に関すること】

(3)家で自分で計画を立てて勉強している(学校の授業の予習や復習を含む)。
→ 小6で75.4%、中3で63.7%で全国より高い。(全国:小6 71.1%、中3 58.5%)



家庭において、主体的・計画的に学習しようとする態度が良好

＜ 学校に対する質問紙調査からの抜粋 ＞ 「よく行った」と回答した割合を抜粋

【指導方法等に関すること】

(4)習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした。
→ 小で26.6%、中で27.1%で全国より高い。(全国:小 21.2%、中 20.7%)

(5)令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用した。

→ 小で68.5%、中で61.2%で全国より高い。(全国:小 29.9%、中 23.6%)



**各学校の学力向上に対する、地道で真摯な取組が
子どもの高い学力の維持・向上を支えている**